13 諏訪湖周辺域におけるユスリカ成虫の飛翔行動

○安藤誠・平林公男（信州大・繊維・応用生物）

Flight behavior of Chironomid midges in Lake Suwa Area

Ando M. and Hirabayashi K.

諏訪湖では毎年ユスリカ成虫が大量発生し、不快昆虫として周辺住民から嫌われている。本研究ではユスリカ成虫の防除対策を検討するために、成虫の飛翔行動を明らかにした。調査は1999年5月31日～6月8日に、湖畔近くの信州大学諏訪臨湖実験所において行った。ライトトラップを地上9m(3F)、16m(5F)、19m(屋上)の湖に面した壁面に設置し、高さごとに捕獲される成虫数をカウントした。また、6月5日～6月6日には、成虫の飛翔時間を知るために2時間おきに捕獲数を調査した。その結果、オオユスリカについては16mで、クロユスリカについては19mで最も多く捕獲された。成虫の飛翔時間は、オオユスリカでは20～22時と2～4時に、クロユスリカでは、18～20時にピークが認められた。ユスリカ成虫の飛翔行動は、種により大きく異なり、防除対策を立てる上で種ごとにきめ細かな計画を検討する必要がある。

15 飼育環境下のオオツチグモ類に寄生したクサビノミバエ（双翅目：ノミバエ科）の1例

林 利彦（感染研・昆虫医科学部）・小野展嗣（国立科博・動物研究部）・八幡明彦（東京都荒川区）

Observations of *Megaselia scalaris* parasitic on breeding tarantulas in Tokyo.

HAYASHI, T., Ono, H. and Yawata, A.

クサビノミバエ *Megaselia scalaris* (Loew, 1866)は汎世界的に分布するヒト親和性の強いノミバエで、ハエ症例も多い衛生上重要な種である。日本でも広く分布し夏期に多いが、わが国では研究者が少なく、例えば1989年に発行された“日本産昆虫総目録II”（九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集）では分布が北海道のみとされている等、正確な情報に乏しい。今回演者らは東京都荒川区で飼育中のオオツチグモ類の生体からクサビノミバエが発生する事例を見出したので報告する。クサビノミバエ幼虫の食性は主に食腐性ではあるが他にも幅広い記録がある。しかしクモの生体から発生した例は今回が初めてである。寄生されたオオツチグモ類は3種3個体で、いずれもアメリカから輸入された。寄生を確認した後全ての個体は死亡した。

14 沖縄県におけるブユの採集成績

○斎藤一三（横浜市大・医・寄）・金山彰宏（横浜市衛研）・高橋正和（感染研・昆虫医科学）・吉成正裕（横浜市大・医・寄）・松原和也（佐賀大・農）

Fauna of the blackflies in Okinawa Prefecture

Saito K., Kanayama A., Takahashi M., Yoshinari M. and Matsubara K.

1996年1月と2000年4月に沖縄県においてブユの生息調査を行った。

1996年1月に21地点で調査を行い、9地点から1属5種901個体が採集された。最も多く採集された種は *Simulium aureohirtum* の584個体で全採集数の64.8%を占めた。次いで、*S. suzukii* の287個体（31.9%）、*S. japonicum* の24個体（2.7%）の順であった。2000年1月に前回と同じ地点で調査を行った（ただし、16と17では増水の為調査が出来なかった）。調査19地点のうち11地点から1属3種369個体が採集された。最も多く採集された種は *S. aureohirtum* の200個体で全採集数の54.2%を占めた。次いで、*S. japonicum* の138個体（37.4%）、*S. suzukii* の31個体（8.4%）の順であった。

ブユが採集されなかった地点は主として沖縄市以南であった。また、本調査において本県からの新記録種の追加はなかった。

16 兵庫県朝来町のヤマビルについて

○井上一子・宇井寿恵子・藤枝敦子（ヤマビル研究会）・北垣利晃・伊藤宣広（兵庫県朝来町）・谷重和（イカリ消毒、ヤマビル研究会）

Land leech in Asago-cho, Hyogo Pref.

Inoue I., Ui S., Fujieda A., Kitagaki T., Ito N. and Tani S.

これまで、ヤマビルによる吸血被害の多い地域としては、秋田県井川町・五城目町、千葉県天津小湊町・大多喜町、群馬県中之条町などが知られているが、関西地方ではほとんど調べられていない。

今回、平成12年5月～6月の期間に兵庫県朝来町の22地域（127地点）でヤマビルの生息状況を調査した。その結果、16地域（72.7%）からヤマビルの生息が確認され、同町の広い範囲にヤマビルの生息分布が広がっているのが明らかとなった。なお、ヤマビルの生息数の多い地域では殺ヒル剤（ヤマビルキラー）を用いてヤマビルの防除も行ったのでそれらの成績についても併せて報告する。